

鈴鹿工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	国語 I B	
科目基礎情報							
科目番号	0014			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電気電子工学科			対象学年	1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	教科書：岩崎昇一・他編「精選言語文化」（三省堂） 参考書：「精選言語文化 準拠学習課題ノート」（三省堂）, 石谷春樹編「日本近代文学選 増補版」（アイブレーン）						
担当教員	久留原 昌宏						
到達目標							
古典学習を通じて、当代の人間の考え方や生き方を知ることから始まり、加えて現代に生きる日本人として必要な「古典文学」の基礎知識の獲得と読解力の向上を果たすことができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、特有のリズムや韻などを味わい理解することができる。			古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、特有のリズムや韻などを味わうことができる。		古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱しても、特有のリズムや韻などを味わうことができない。	
評価項目2	代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。			代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えることができる。		代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解したり、人間・社会・自然などについて考えることができない。	
評価項目3	教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できる。			教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を理解できる。		教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を理解・習得することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本科目は、高等専門学校の国語の基礎能力を「古文・漢文」の分野を中心にして身につけさせる。まず、「古典」学習の意義（(1)当時の人々の考え方、生き方を知る。(2)古典を通じて現代の自分たちの生活、考え方、生き方を捉えなおす。）を再確認する。具体的には、中学校までの古典学習の総復習を含めながら、高専生としてそして現代に生きる日本人として、必要な古典文学の基礎知識の獲得と、読解力の向上をねらいとする。						
授業の進め方・方法	・すべての内容は学習・教育目標（A）の＜視野＞＜意欲＞、及び（C）の＜発表＞に対応する。 ・授業は講義・演習形式で行う。講義中は集中して聴講する。 ・「授業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする。						
注意点	「達成目標の評価方法と基準」 下記授業計画の「到達目標」のすべてを網羅した問題を1回の中間考査、1回の定期考査とレポート・小テスト等で出題し、目標の達成度を評価する。各「到達目標」の重みは概ね均等する。合計点の60%の得点で、目標の達成を確認できるレベルの試験を課す。 「学業成績の評価方法および評価基準」 後期中間・学年末の2回の試験の平均点を70%, 課題提出、小テスト、授業中の問題演習への取り組み等の結果を30%として評価する。ただし、後期中間・学年末の2回の試験ともに原則として再試験は行わない。 「単位修得要件」 与えられた演習課題を提出し、学業成績で60点以上を修得すること。 「あらかじめ要求される基礎知識の範囲」 中学校卒業程度の国語能力、特に「古文・漢文」についての基礎学力を身につけていることを前提とする。 「レポート等」 理解を深めるため、すべての教材に演習課題を与える。また、古典文法小テスト、課題提出等を課する。 「注意事項」 授業中は学習に集中し、内容に対して積極的に取り組むこと。また、課題は期限厳守して提出すること。なお、本教科は後に学習する国語Ⅱ、日本文学。言語表現学Ⅰ・Ⅱ、文学概論Ⅰ・Ⅱの基礎になる科目である。						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス 古文入門および学習方法について（「古文の世界へ」）		1. 「古典」の学習の目当ての意義を理解し、学習する意義を確認する。		
		2週	古文入門および学習方法について（歴史的仮名遣い・いろは歌・五十音図） 「児のそら寝」（『宇治拾遺物語』）①		2. 音読を通して現代文との違いに注意しながら、古文を読むための基礎(歴史的仮名遣い等)を理解している。 3. 登場人物の心理に注目して、古文の世界を理解し、古文を読むための基礎(品詞等)を理解している。		
		3週	「児のそら寝」（『宇治拾遺物語』）②		上記2・3に同じ。		
		4週	古文の文法（品詞分類・用言と活用形・動詞・形容詞・形容動詞）		4. 古典文法の基礎学習（動詞・形容詞・形容動詞）の学習内容を理解している。		
		5週	随筆 「つれづれなるままに」（「徒然草」）		5. 前期中間試験の内容を理解した上で、三大随筆のそれぞれの文学的価値を理解している。		
		6週	随筆 「丹波に出雲といふ所あり」（「徒然草」）①		6. 兼好法師の人生観および「徒然草」の世界観を理解し、古典文法の基礎学習の学習内容を理解している。		
		7週	随筆 「丹波に出雲といふ所あり」（「徒然草」）② 前期中間までの復習		7. 古文を読むための基礎（係り結び等）を理解し、前期中間までの学習内容を理解している。		
		8週	前期中間試験		前期中間試験		

4thQ	9週	前期中間試験の解説と総括 漢文入門（「漢文の世界へ」） 漢文の基礎構造と訓読	8. 前期中間試験の内容を理解した上で、漢文の特色を学んで、漢文訓読の基礎（訓点・書き下し文等）を理解している。
	10週	漢文入門（「成句・格言を読む」） 置き字・再読文字	9. 漢文の特色を学び、漢文訓読の基礎（置き字・再読文字等）を理解している。
	11週	故事成語 「朝三暮四」（「戦国策」）①	10. 故事成語の学習を通して、戦国時代の諸国と遊説家の言行を理解し、漢文の句法（否定・疑問）を理解している。 11. 故事成語の学習を通して、文学史的価値を理解し、漢文の句法（反語・感嘆等）を理解している。
	12週	故事成語 「朝三暮四」（「戦国策」）②	上記10. 11に同じ
	13週	歌物語 「東下り」（「伊勢物語」）① 助動詞・助詞	12. 音読を通して現代文との違いに注意しながら、和歌の修辭法の学習を通して、歌物語の特徴を理解する。 13. 歌物語の展開をおさながら、古典の内容を理解している。 14. 登場人物の心理に注目して、古文の世界を理解し、文法（付属語）の応用学習内容を理解している。
	14週	歌物語 「東下り」（「伊勢物語」）② 和歌の修辭	上記12. 13. 14に同じ
	15週	歌物語 「東下り」（「伊勢物語」）③ 前期末までの復習 授業のまとめ（アンケート）	上記12. 13. 14に同じ
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3	
			論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べるができる。	3	
			文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べるができる。	3	
			常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	
			類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	
			社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	
			専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3	
			実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	
			報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	
			収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	
			報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	
			作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	
			課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	
			相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	
			新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	

評価割合

	試験	課題・提出物	小テスト・発表		合計
総合評価割合	70	15	15	0	100
配点	70	15	15	0	100